ブン」の活躍が誘因となって国立美術学校が発足した。「グループ・オブ・セブン」としてまとまった最後の展覧会は一九三一年であった。

「カナダ美術家団体」という絵画における現代的傾向を代表するより巨大なグループの第一回の展覧会は、一九三五年に行われた。三〇年代終り頃のモントリオールでは、もう一つの組織「現代美術協会」が結成されていた。可能なかぎり広範囲な基盤に立ってカナダの現代美術を推進していこうとする団体で、その原動力となったのはジョン・ライマン（一八八六―一九六九）であった。パリで学んできたアルフレッド・ペラン（一九〇六―）とポール＝エミール・ボルドゥア（一九〇五―一九六〇）もその中にいた。四〇年代中頃にはボルドゥアによって紹介されたシュルレアリストの理論が、オートマティストを生み出した。彼の後継者たちはこの名で呼ばれている。

ボルドゥアの信念は、一切の束縛をはなれた完全に自由で創造的な生き方を守りぬく、というものであり、一九四八年の『一切の拒否』（Refus Global）の公刊は基本的には彼の力によっている。この重要な本のなかで彼はケベックの知識人たちを抑圧し、自由な考えを奪い、教会のみが力を持つ植民地的環境に封じこめているさまざまな権力について指摘した。彼はこれらの代わりに公的な権威からの要求に対する拒絶を、個性解放の理想の無制限な追求を擁護したのである。

トロント、モントリオール一帯をのぞくと東部および西部の美術界は、特定のグループの動向と一致する部分は少ない。ニュー・ブランズウィック州サックヴィルのマウント・アリソン大学では、クリストファー・プラット（一九三五―）などの

「二十世紀カナダ絵画展」の日程

●東京国立近代美術館
七月九日～八月二日

●北海道立近代美術館
八月二十九日～九月二十日

●大分県立芸術会館
十月一日～二十八日

なお、七月十一日（土）午後二時から、国立近代美術館の講堂でオンタリオ州立美術館カナダ美術史部長デニス・リード氏が二〇世紀のカナダ美術について講演することになっている。入場は無料。

プロフィール

エミリー・カー

一八七一年、B・C州ビクトリアで生まれ、そこで育った。サンフランシスコ芸術学院、ロンドン、セント・イブズ（英国）、パリなど各地で勉強を続けたあと、バンクーバーで教えながら絵を描いた。一時は画家になるのをあきらめてビクトリアに戻ったが、オタワ、トロントを訪れ、そこで「グループ・オブ・セブン」のメンバーと会ってから、絵画に意欲をもって取り組むようになった。一九四五年に亡くなるまでの二十年間は、絵画と文筆活動に専念した。

デビッド・アレグザンダー・コルヴィーユ

一九二〇年、トロント生まれ。子供時代をトロント、セント・キャサリンズ（オンタリオ州）、アマースト（ノバ・スコシア州）などで過ごしたあと、ニュー・ブランズウィック州サックビルにあるマウント・アリソン大学で美術を学ぶ。一九四四年から二年間は従軍画家。一九四六から六三年までマウント・アリソン大学で教鞭をとる。現在はノバ・スコシア州ウィンザーに住んでいる。

ウィリアム・ロナルド

シェイクスピア劇で知られるオンタリオ州ストラットフォード生まれ。トロントのオンタリオ美術大学で学ぶ。美術アーチストの仕事をすることから、創作活動を続ける。一九五四年から六五年までニューヨーク市に滞在。その後トロントに戻り、画家、テレビ・ラジオのパーソナリティーとして活躍。

ジェームズ・ウィルソン・モリス

一八六五年にモントリオールで生まれた。トロントで法律を勉強、のちパリに留学して、生涯をそこで過ごした。フランス各地だけでなく、英国、カナダ、西インド諸島、北アフリカに旅し、一九二四年にチュニスで亡くなった。

デビッド・ボルドゥック

一九四五年トロントで生まれる。オンタリオ芸術大学、モントリオール美術博物館芸術デザイン科で学び、その後はずっとトロントで暮らしている。一九六八年にカナダ国立美術館がパリの近代美術館のために用意し、ローザンヌ、ローマ、ブラッセルなどでも開催された「今日のカナダ美術」展、第七回カナダ絵画ビエンナーレ（一九六八年）、「一批評家が選んだ十四人のカナダ人」（ワシントンD・Cのハーシュホーン博物館主催、一九七七年）、「一九七〇年代におけるカナダ絵画の様相」（アルバータ州カルガリーのグレンボー博物館主催、一九八〇年）などに出展した。

ライオネル・L・フィッツジェラルド

一八九〇年ウィニペッグで生まれ、ウィニペッグやニューヨークで学ぶ。一九二四年からウィニペッグ芸術学院で教え始め、一九二九年から四九年までは校長をつとめた。一九五六年、ウィニペッグで死去。